東京文化財ウィーク2026　　郷土資料室特別展

戦争と詩　まちの記憶

―戦災の記録と詩人の感受性―

81年前、米軍の空襲により激しい被害を受けた西東京市。
本展では、当時の生々しい戦災記録と、二十歳で敗戦を迎えた詩人・茨木のり子の力強い言葉という2つの視点から、西東京市の歴史を見つめ直します。

10月24日（土）～
11月29日（日）

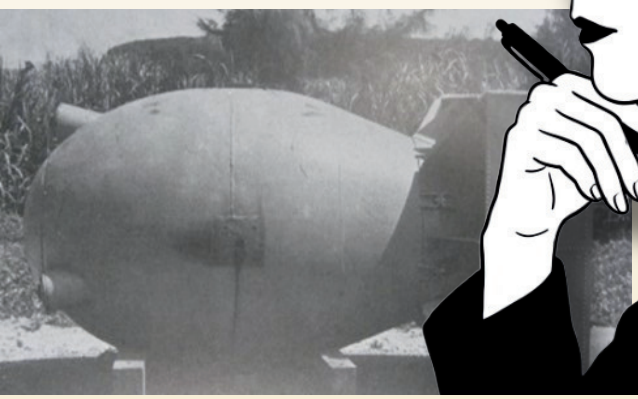
開室日
水～日曜日
10時
～
17時

会場　**西東京市郷土資料室**
西原総合教育施設2階(東京都西東京市西原町4-5-6)

アクセス
◆西武池袋線「ひばりケ丘」駅南口から乗車
◆西武新宿線「田無駅」北口から乗車
西武バス（田44/境07系統）
「西原グリーンハイツ」下車徒歩３分















主催　西東京市教育委員会教育部地域学習推進課
TEL　042-420-2832　　FAX　042-420-2891
MAIL gakusyuusuishin@city.nishitokyo.lg.jp

協力　茨木のり子の家を残したい会　　書　柳田由紀子

【特別展HP】　【郷土資料室HP】

＊写真右側・上から
01）「B-29の墜落現場」提供：西東京市図書館
02）「青梅街道　練馬関町付近」提供：練馬わがまち資料館
03）「中島航空金属診療所の看護婦」提供：西東京市図書館
＊写真左側・上から
04）「校庭から出土した銃と刀剣」
05）「中島飛行機武蔵製作所を狙うB-29爆撃機」
米国議会図書館所蔵　提供：武蔵野ふるさと歴史館
06）「模擬原爆（パンプキン爆弾）」
米国国立公文書館所蔵　提供：工藤洋三氏

戦争の爪痕と詩人の言葉が交差する―

空襲の犠牲者を悼む市民の願いから建立された「平和観音像」の想いを引き継ぐ「平和のリング」に込められた不戦の祈り、そして戦後、東伏見の日常を愛した詩人・茨木のり子の平和を求める深い思索をたどります。

展示1

写真でたどる詩人 茨木のり子のあゆみ

展示作品
『女の子のマーチ』
谷川俊太郎のエッセイ
『茨木さん』

展示物
ペンネーム「茨木」の由来とエピソード

展示2

まちの戦災の記録と詩人の戦災の記憶

〔西東京市の戦災の記録〕
『西東京市の空襲の記録』
身近にあった戦争資料など

〔茨木のり子の戦災の記憶（戦争と詩）〕
展示作品
『四海波静』
『わたしが一番きれいだったとき』など

展示3

茨木のり子の思索と暮らしを支えた東伏見の日々

展示作品
『青梅街道』
『自分の感受性くらい』
『ビスケット工場』
『対話』、『歳月』
『倚りかからず』など

展示物
詩人がみた風景



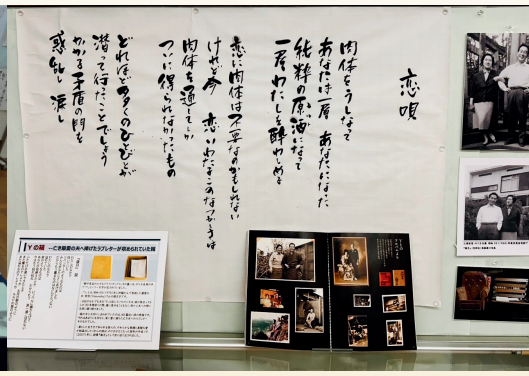


特別展示

茨木のり子さんの愛用品
マグカップ、三年連用当用日記、書棚に置かれていたミニチュアの椅子など







東京文化財ウィーク2026　郷土資料室特別展

戦争と詩　まちの記憶

―戦災の記録と詩人の感受性―

西東京市郷土資料室
〒188-0004
東京都西東京市西原町四丁目5番6号
042-420-1183　042-464-1184

¥ 無料　開室時間 水曜日から日曜日の午前10時から午後5時(祝日でも開室)

